

Press Release

ロングリーチグループ

サイバードホールディングス経営陣と MBO を実施


【東京 / 香港 2007 年 10 月 31 日】 独立系投資会社ロングリーチグループは、株式会社サイバードホールディングス (JASDAQ: 4823、以下、「サイバードホールディングス」) 経営陣とともにマネジメント・バイアウト(MBO) によりサイバードホールディングスを非公開化させるための一連の取引の一環として、サイバードホールディングスの発行済普通株式および新株予約権の全てを取得することを目的に、公開買付け(以下、「本公開買付け」)を実施いたします。サイバードホールディングス取締役会においては、本日、本公開買付けに賛同する旨の決議をしております。

本公開買付けでは、ロングリーチグループの一員である Longreach Capital Partners 1, L.P.、LONGREACH HOLDINGS IRELAND および Longreach GP Commitment L.P. (以下、「本ファンド」) が発行済株式の全てを保有する株式会社 CJ ホールディングス(以下、「公開買付者」)が、サイバードホールディングスの発行済普通株式を 1 株につき 60,000 円で買付けます(なお、本公開買付けにおいては、サイバードホールディングスの発行済新株予約権も 1 個あたり 1 円で買付けます。)。本公開買付けにおける普通株式の 1 株あたりの買付価格は、サイバードホールディングス普通株式のジャスダック証券取引所における 2007 年 10 月 30 日の終値に 13.4%の、過去 3 ヶ月の終値の平均値に 40.8%のプレミアムを加えた金額に相当します。

サイバードホールディングスは平成 10 年 9 月にモバイルコンテンツプロバイダーとして設立され、現在では、サイバードホールディングスグループで化粧品を中心とする通販コマース事業やソリューション事業も展開しています。昨今ではモバイルインターネット市場の多様化が進み、さらなる拡大が見込める中、サイバードホールディングスでは中長期的な企業価値向上を目指すためには今こそ事業戦略の遂行を加速させる時期であると強く考えており、新たなプラットフォーム事業の確立や既存のモバイル・コンテンツ事業やコマース事業強化のための体制の整備とアクションを実行するための体制の整備とアクションを実行することが急務であると考えておりました。サイバードホールディングスは、かかる体制の整備とアクションを実行するためには、短期的には業績の成長鈍化が生じる懸念や、中長期にわたり利益の変動性が高まるリスクがあることから、非公開化により当面のリスクを公開買付者に集中させ、ガバナンス体制の強化を図る必要があるとみていました。

こうした状況の中で、サイバードホールディングス創業者であり代表取締役社長兼グループ CEO である堀主知ロバート氏は既に信頼関係にあるロングリーチグループを事業パートナーに選定し、双方で慎重な協議を重ねて参りました。その結果、中長期的な視点に立った事業戦略を実行して、企業価値の更なる向上を実現するためには、柔軟かつ迅速な経営戦略の実現が可能となる MBO である本取引を通じて非公開化を行うことが最善であると判断しました。

本ファンドは、堀主知ロバート氏(発行済新株予約権が全て行使された場合の完全希薄化後の発行済株式総数に対する所有株式の合計の割合 9.69%、以下、「堀氏」)からその所有するサイバードホールディングス株式および新株予約権の全てについて原則として本公開買付けに応募する旨の同意を得ています。加えて、本ファンドは、サイバードホールディングスの大株主である岩井陽介氏(同 3.34%)、株式会社らうむず(同 2.64%)、立石知雄氏(同 1.21%)および岩井恵美氏(同 0.18%)からもその所有するサイバードホールディングス株式および新株予約権の全てについて原則として本公開買付けに応募する旨の同意を得ています。このほか、本ファンドは、サイバードホールディングスの取締役である中島謙一郎氏(同 0.72%、以下、「中島氏」)との間で、その所有するサイバードホールディングス株式および新株予約権について本公開買付けに応募した場合には、公開買付者が中島氏に対して本公開買付け終了後に第三者割当増資を行う旨の合意をしております。



本公開買付けが成立した場合、公開買付者はサイバードホールディングスの完全希薄化後の発行済株式総数の3分の2以上を取得することとなりますが、本公開買付けでサイバードホールディングスの全株式(自己株式を除く)を取得できなかった場合には、公開買付者は、サイバードホールディングスの発行する全ての普通株式に全部取得条項を付した上で、当該株式の取得と引替えにサイバードホールディングスの別個の普通株式を交付し、かかる交付に際して公開買付者以外のサイバードホールディングスの株主に交付されるサイバードホールディングス株式の数が1株に満たない端数となるよう決定する方法により、サイバードホールディングスを公開買付者の完全子会社とする予定です。

本公開買付けの公開買付期間は2007年11月1日から同年12月13日までの30営業日です。なお、本公開買付けにおいては買付けを行う株券等の数に上限を設定していないため、本公開買付けの結果、ジャスダック証券取引所の株券上場廃止基準に該当した場合、サイバードホールディングスの株券は、所定の手続きを経て上場廃止となる可能性があります。また、当該基準に該当しない場合でも、公開買付者は、本公開買付け後に、上記のとおり、サイバードホールディングスの全株式を取得することを予定しておりますので、その場合にはサイバードホールディングスの株券は上場廃止となります。

本公開買付け後は、サイバードホールディングスでは引き続き堀氏が代表取締役社長にとどまるとともに、中島氏および同じくサイバードホールディングスの取締役である細田洋平氏が取締役にとどまり、また、サイバードホールディングスの執行役員である川田敦昭氏が新たに取締役に就任する予定です。さらに、ロングリーチグループから5名の取締役を派遣する予定です。

ロングリーチグループチェアマン兼取締役パートナーであるマーク・チバは次のように述べています。「本公開買付け成立後には、ロングリーチグループはサイバードホールディングスの事業パートナーとしてこれからの戦略転換期における中長期的な戦略策定とその実行を支援し、経営陣、従業員の皆様と共にダイナミックな成長と飛躍を目指してまいります。既存株主の皆様にはサイバードホールディングスの中長期的な成長戦略をご理解いただき、今回の公開買付けにご賛同いただけることを期待しています」。

###

報道関係者からのお問い合わせ

ギャビン・アンダーソン (服部、和田)

03-5404-0640

ロングリーチグループについて

ロングリーチグループは、日本およびアジアにおける独自の戦略的プライベート・エクイティ投資を目的に2003年10月に設立された事業支援投資会社です。今後の日本産業の発展を担う企業の再生およびグローバルな事業展開を中長期的な戦略的な視点から支援します。グローバルなネットワークに加え業界知識と地域に根ざした人脈および案件遂行能力を活かし、付加価値の高い投資案件を実現しています。ロングリーチグループは、投資実行力と投資リターンを最大化することにより、市場での高い評価を長期的に維持することを目指しています。

ロングリーチグループは、投資主体である Longreach Capital Partners 1, L.P. (英国領ケイマン諸島法を準拠法として設立されたパートナーシップ)とその運営会社である LONGREACH MANAGEMENT CORPORATION CAYMAN (英国領ケイマン諸島法を準拠法として設立された法人)、投資主体である Longreach GP Commitment L.P. (英国領ケイマン諸島法を準拠法として設立されたパートナーシップ)とその運営会社である LONGREACH GROUP CAYMAN (英国領ケイマン諸島法を準拠法として設立された法人)、投資主体である LONGREACH HOLDINGS IRELAND (アイルランド法を準拠法として設立された法人)および香港拠点のロングリーチグループ・リミテッドならびに東京拠点の株式会社ロングリーチグループにより構成されるグループです。東京拠点の株式会社ロングリーチグループは、日本およびアジア市場に関するデータや情報を収集し、投資ファンドが投資案件の発掘調査を行うためのサポートをしています。

2006年4月には、第1号ファンドとなる Longreach Capital Partners 1 および Longreach Capital Partners Ireland 1 (以下、ファンド)の設定を完了しました。ファンド総額は募集上限の825億円(750百万米ドル相当。米ドル受入時は¥/\$=110で換算)となりました。国内外大手機関投資家および企業からの出資に加え、共同投資の仕組みを活用することにより、日本およびアジア地域におけるバイアウト案件への投資を行っています。これまでに手掛けた投資案件には、通信用海底・陸上用ケーブル大手のオーシーシー、ITソフトのニウス コー、台湾の安泰銀行、中国のアジア・アルミニウム・グループなどが含まれます。